

海外の電力情勢に関する報告会とディスカッションを開催

名古屋大学大久保教授と当社若手技術者が、明日の電力について活発な意見交換

去る平成12年2月28日、技術開発本部にて、名古屋大学大久保仁教授を招いて海外の電力技術情勢に関する報告会とディスカッションを行った。

大久保教授は平成11年度に半年間に渡って欧米での電力機器技術を視察しており、今回は海外電力の技術動向についての知識を深めると同時に、電力小売り自由化時代における今後の技術開発のあり方を考えるうえで、貴重な講演となった。

当日は当社若手技術者をを中心に約100名が参加し、熱心に大久保教授の講演に耳を傾けていた。

講演の後にはディスカッションが行われ、1時間に渡って白熱した討論が展開された。



講演する大久保教授

なお、当日の主なディスカッション内容は以下のとおりである。

Q：欧州の環境問題への取り組みについて、全体を統括した組織はないのか。

A：各国で環境問題に対する認識の差が大きく、統一化する動きは殆ど見られない。しかし、やはりドイツが最も厳しく管理している。

Q：パワーフォーマーの最適な電圧階級はどれくらいか。

A：現在は6～10万Vの電圧を発生できるところまできており、将来は40万V位までは可能と考えられる。しかし、最適電圧については、その他要因もあり、今後の技術開発に依存するところが大い。

Q：欧米での技術開発ニーズは、メーカ、ユーザどちらから出ているのか。

A：一般に、自社で研究所を持っているユーザであれば、ユーザ主導になる。メーカや大学の役割も増大している。

Q：欧米のコストダウンに対する考え方は、日本とは異なるのか。

A：我が国のコスト試算は、現在の技術でできるものを積み上げて計算していくが、欧米では先ず目標を決めて、それに対して技術開発をいかに進めていくかを考えている点が相違している。

Q：将来の超電導の電圧階級のターゲットはどれくらいに置かれているのか。

A：現在のプロジェクトでは110kV～225kVについて研究されており、今後、技術開発により245kV、400kVまで達成する可能性がある。



100名を超える聴講者

大久保教授は、「欧米における技術開発の姿勢の良いところは積極的に取り入れ、それに日本の独自性も活かしながら今後の電力について考えて欲しい。」と述べられ、聴講者の8割を越える当社若手技術者に熱いエールを送った。

なお、講演項目は以下のとおりで、視察概要に関しては次号(85号：平成12年6月発行)にて掲載予定。

- (1)米国・ヨーロッパにおけるSF₆ガス対応
- (2)ヨーロッパにおける超電導電力応用技術開発
- (3)ヨーロッパユーザの動向とBEWAG社の研究開発
- (4)ヨーロッパメーカの機器開発手法



ディスカッション風景